

生活創造空間



～新年度のご挨拶～

第36号 2018年4月20日発行

平成21年6月に「生活創造空間にし」が誕生して、間もなく10年目を迎えようとしている。県央福祉会さんの就労サポートセンターエヌクラブさんと、当法人の地域活動ホームガッツ・ビーと西が、同じ建物の中で役割の違う福祉サービスを提供してきたが、1階の事務所は壁を隔てていないので、外来者は同じ法人の職員と勘違いするほど違和感なく日々の業務を行っている。

駅よりの線路側に位置するエヌクラブさんの『シャラカフェ』も生活創造空間にしを利用する方だけでなく近隣の住民の方々の憩いの場にもなっているようだ。私はここに来ると必ず、パンやレトルトカレー等を買って、売り場のご利用者さんと言葉を交わすのが楽しみの一つになっている。1階のホールでは、毎月毎に行なわれるランチコンサートでにぎわいを見せているし、5階の食堂も普段は2つの施設が時間差で昼食をとっているが、各法人が行う研修会やイベントなどに双方で活用している。5節句にちなんだこども食堂の拡大版も、この食堂を使って定着しつつあるようだ。

1階のカウンターでは、平成23年の東日本大震災やその後の熊本地震などの被災地支援として、被災地の福祉施設で作った商品の販売を行い、「忘れない」というメッセージを発信している。火事などで被災された家族の受入も数件あって、地域の中の福祉拠点としての存在意義も大きくなっている。そして屋上庭園では、ボランティアの方たちが丹精込めて手入れをしてくださるお陰で、季節の花々が心を和ませてくれる。それぞれの職員たちが福祉サービスの役割は違っても、目指す福祉のあり方は同じだから、この建物を様々な活用し、ご利用者や地域の方々と一緒になって出来ることを模索し形にしてきた。

他にあまり例のない建物だからこそ『生活創造空間にし』として出来ることが増えていくようにも思える。西区という横浜市の中では一番小さな区で、歴史を積んできた古くからの街と、開発著しい新しい街の中で、根を張り、成長し、やがてなくてはならない場所になるまで、これから二つの社会福祉法人が力を合わせていくことになる。

地域の方々と協力と支援を頂きながら、更に地域のために二つの法人が連携をとっていきたいと思っている。

社会福祉法人 横浜共生会
理事長 村松 紀美枝



「今時の若者は」というが、何のその！

平成 30(2018)年 4 月 13 日

社会福祉法人 県央福祉会

理事長 佐瀬 睦夫

1. はじめに

県央福祉会は、平成 30(2018)年度も、43名の新人職員を迎えました。例年なら、3月下旬から約1週間「入職前研修会」を行なっております。しかし、採用前の3月実施は、ブラック企業になりかねないという理由から、今年度から4月2日から6日までの5日間で集中的に実施しました。

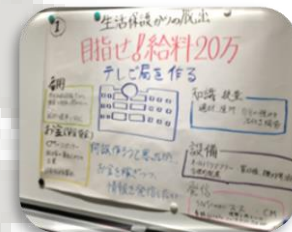


2. イタリア・トリエステの挑戦は、「精神病院の廃絶法(通称バザーリア法)」に繋がった。

当法人の理念、「ソーシャル・インクルージョン(共生社会)」を現実のものにした。

イタリアは1978年に「精神病院廃絶法(180号法)」を制定し

20年かけ単科精神病院を全廃した取り組みに参加職員は深い感動を覚えたことを話しました。



3. 30年度採用職員たちの夢とこれからの挑戦とは！

[5日間の研修を終えて、これから挑戦したいこと発表しました]

(その1) Aグループは、激動期には、時代が求めるニーズに対して積極的に「起業」し、

職員の満足度を高めるなど仕事以外の様々な「イベント」にも挑戦したいと語ります。また、「地域清掃活動」も行いと発表しました。

(その2) Bグループの職員は、県央福祉会は「テレビ局」を持ち介護・障がい支援・療育・保育等の実態を報道し、

誰もが介護や支援などを身近なものにしたいと言います。テレビ局には様々な仕事があり、障がい者の働く場として恵まれた企業です。

そして、障がい者が生活保護からの脱出と低賃金からの当たり前の給料へ「めざせ月收入20万円！」だと叫びました。

自分たちで作れなければ、テレビ局を買収しようなどと奇想天外な発想も述べ若者たちエネルギーを感じました。

それこそ給付対象者から納税者をめざそうという心意気には敬服します。

(その3) Cグループは女性だけのグループです。主なスローガンは「テーマパークを作ろう」というものです。

例えば、「キッズニア東京」のような職業体験をモデルに、法人内の就労継続B型事業所の利用者が働き、商品や製品及びカフェレストランの料理などを提供し、障がい者が働く「テーマパーク」にしたいと言います。

積極的に「楽しいこと！」や敢えて「大きなこと！」を考えなければ時代は変えられない。

県央福祉会には多種多様な人々が働いており、多くの障がい者が働いています。

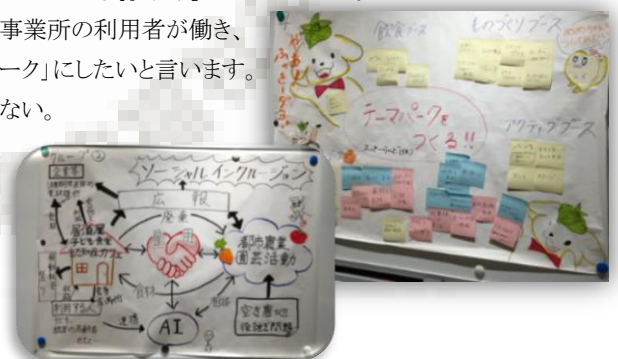
社会の至るところで障がい者が働いている社会を作りたいとも語りました。

(その4) 最後のDグループは、「居酒屋」を経営し、

障がい者を雇用したいと言い、この居酒屋は子ども食堂にも低所得者や認知症カフェも兼ねる地域に根ざしたカフェレストランにしたいと言いました。

また、空き農地を活用した都市型農業を行ない障がい者の新たな職業と雇用である6次産業への挑戦をしたと言います。

このグループは、法人の理念である共生社会づくりに挑戦したいと言います。そのために様々な企業や地域社会との連携を求めて、積極的に広報活動やカフェレストランなど地域の人々たちとともに歩めるネットワークづくりをめざしたいと言います。



4. まとめ

今年度県央福祉会に入職した若い職員たちの柔軟な発想と新しいエネルギーに感動しました。「今時の若者は！」を評して、やる気のなさや主体性のなさ、何事にも挑戦しないことに、上司や先輩は酷評しますが、私はそんなことはないと思っています。

「鉄は熱いうちに打て！」と言います。それは「新人職員の教育システムが悪い」のであって「若者のせい」ではありません。

何事にもチャレンジしようとする環境や雰囲気があるのかということでしょう。「エヌ・クラフ」は、「工賃5万円をめざして！」

今持つて果敢に挑戦し続けております。

この4月から生活創造空間にし館長になりました、地域活動ホームガッツ・ビーと西所長の阿部浩之です。どうぞよろしくお願いいたします。

2025年には全人口の4人に1人は75歳以上の後期高齢者という超高齢化社会を迎えます。今年は2018年。あと7年で超高齢社会を迎えることになります。この生活創造空間にしが開所したのは2009年。

6月で10年目に突入です。本当に時のたつのは早い…。あと7年なんて本当にあっという間です。少子高齢・人口減少社会という大きな課題を抱えている中で、昨今では様々な課題が多様化・複雑化・深刻化しています。

障がいのある方の親の高齢化、介護と育児に同時に直面する世帯、高齢の親と働いていない独身の子が同居している世帯など、これらを突き詰めていくと、「生活のしづらさ」「生きにくさ」というキーワードが浮かび上がります。この「生活のしづらさ」「生きにくさ」を生活創造空間にしだけで解決することは到底難しいことでありますので、行政や区内関係機関、地域住民と一緒に「我が事」として考え、「丸ごと」（障がいはもちろん、子ども・高齢・生活困窮者等）支えていく、そういった地域と一緒に創っています。

10年経っても大地に小さな芽が出た程度。生活創造空間にしを知らない人なんて、まだまだたくさんいます。それでも来館して下さる方、知って下さる方は着実に増えてきていると実感しています。地域の中で根付いてきています。これから先も継続して行っていくこと、時代の流れに合わせて新たに組み込んでいくことを織り交ぜながら、幹（根幹）を太く強く育てていきます。それが「生活創造空間にしのことを知ってもらうこと」＝「障がいのある方のことを知ってもらうこと」、に自然と繋がっていくんだと思います。障がいのある方が地域の中で当たり前で暮らせる西区。だから生活創造空間にしは、障がいのある方だけでなく、誰もが集える居場所にならなければ…そうありがたい。



あべ ひろゆき
ガッツ・ビーと西 阿部 浩之



いしい じゅん
エヌ・クラブ 石井 淳

4月から、生活創造空間にし副館長、エヌ・クラブ所長に着任しました。期待と不安を抱きながらの着任でしたが、にしには、これまで出会ったことのない異空間がひろがっていました。

地域福祉の概念が謳われて久しいですが、にしほど地域と密接に結びつき、地域福祉を体現している施設を見たことがありません。

地域とのイベントやお祭り、みんなの食堂（子ども食堂）や小中学校とのコラボレーション（職業体験受け入れなど）、アップダウンの多い地域の移動サービスである「おでかけ3」など、挙げれば枚挙にいとまがない程です。

また、にしで提供している福祉サービスも多彩で、喫茶店、マッサージ、軽作業、製パン、缶パン、レトルト食品、清掃などの就労メニューや、日中の活動の場、おもちゃ文庫、ショートステイ、一時ケアなど、さながら福祉サービスの百貨店のような趣さあります。

そして、それらのサービスには「障がいのある人もない人も、子どもも高齢者も、誰もが住み慣れた地域で暮らしていける社会を実現する」「地域での顔が見える関係をつくる」という確たる理念が貫かれています。

今後は、この貴重な出会いに感謝しつつ、にしの一層の発展に少しでも寄与していきたいと思っています。

今後ともよろしくお願いいたします。



おもちゃのはこ

桃の節供コンサートを終えて

こんにちは！“おもちゃのはこ”の齊藤 緑です。

いつも私たちの演奏をお聞きいただきありがとうございます。平成28年7月の「第1回七夕の節供」以来、毎回ここでコンサートを開催させていただいています。

「とてもとても楽しみにしているお食事会の前に1Fで足止め!?」こんな不満の声は聞こえてきませんが、「はやく上に行きたい!」という皆さんの気持ちをお引止めしてコンサートなど…。と実は思っていました。しかし、生活創造空間にし スタッフの方々のお考えもあり、参加者の皆さんの思いがけない出会いや繋がりができ、より楽しいお食事会のお手伝いになるならとお引き受けした次第です。

というわけで、このコンサートの時はできるだけご来場の皆さんにも声を出したり手を叩いたり、はたまた頭を使ったりなど「これから一緒にみんなで仲良くいただきますよう。」というワクワク気分を増幅していただけるようにプログラムを考えています。なぜかという、ここで発散してお腹を目いっぱい空かせて5Fに上がっていただくと、お食事がもっと美味しくなるからです。



本来、この会は現在あちこちで行われている「こども食堂」なるものが発端だったと思います。しかし、私たちのお食事会では0歳から90歳台の方たちが集う盛大（ちょっとオーバーかしら…）な会になっています。元気な子供たちや若者たちも多いので、「シニアの方たちは大丈夫かしら?」と心配した時もありました。ところが「にぎやかで楽しい!」との大先輩のお声、ホッとすると同時に「こんな時こそみんなで絆を作ってしまえ。」と私たちは考え、うまく結び目になれるよう思案の日々です。誰もがお互いを認め合い助け合い、仲良くなってゆくことができればいいなあ、と思っています。これからもよろしくお願いいたします。

追伸：上巳の節供は古代中国では厄日とされ、川辺で厄払いや禊（みそぎ）をしたそうです。日本には遣唐使によって伝えられたとか。日本では旧暦3月3日のころに行われるようになったそうです。このころに桃の花が咲くことから「桃の節供」となったという説。桃は魔よけの木なのだそうです。知らないことがいっぱい勉強になりました。そして、そして、今年の旧暦3月3日は新暦でいうと4月18日（水）とか。お雛様もう片付けちゃった!!

齊藤でした。

今回はちらし寿司、焼きそば、から揚げなどが並びました。お馴染み三浦創生舎の餃子も!!



平成29年度 生活創造空間にし研修「西区に合ったつながりを創っていくために」
～5回の連続講座を終えて～

生活創造空間にし研修は、平成22年度から地域に向け(学んで)(つながって)(動く)ことができる研修会を目指して、7年続け、今年で8年目。まずは今年度の5回の研修を振り返ります。

今年度のテーマは、「西区に合ったつながりを創っていくために」でした。

高齢福祉、障がい福祉、児童福祉、社会的孤立、貧困・格差の問題などが、多様化・複雑化・深刻化しています。ダブルケア(介護と育児に同時に直面する世帯)の問題や、障がいのある子と要介護の親の世帯。さらにここに貧困問題も絡んで、「縦割り」の制度では到底太刀打ちできない課題が増えてくる中で、今年度は、まずそれぞれの分野の現状と課題を知って、何かしらのアクションが起こせればと考え、研修を組み立てました。



1回目(参加者:36名)は「児童福祉分野の現状と課題」と題して、スマイル・ポートの山田氏、発達支援つむぎの庄司氏にお話しいただきました。地域子育て支援拠点、児童発達支援事業所のことはもちろん、地域での子育て・居場所の大切さや保護者の気持ち・子どもの育ちに寄り添いながらの伴走的支援、人生は点ではなく線であるといった話があり、これらは児童福祉分野に限ったことではなく、共通の課題であることを認識できました。

2回目(参加者:52名)は「地域共生社会の実現に向けて～地域力強化と包括的支援の取り組み～」について、藤沢市福祉健康部長の片山氏から最新の国の動きと藤沢型地域包括ケアシステムについてお話をいただきました。藤沢市では、行政・市民・地域で活動する団体・関係機関等の多様な主体と連携した支え合いの地域づくりを進めており、全世代・全対象型地域包括ケアを掲げています。まさに、今年度の研修テーマにマッチした、ど真ん中のお話を伺うことができました。このつながりで、藤沢市の総合相談システムと「地域の縁側」を見学させていただく(動き)も起こすことができました。

3回目(参加者:34名)は「高齢・障がい福祉分野の現状と課題について」をテーマに横浜市藤棚地域ケアプラザの小林所長と横浜障がい相談システムねくさすの渡辺所長の、にし研修初の座談会形式での研修を行いました。家族支援・65歳での制度移行・連携・孤立といった切り口で「西区」を舞台に活躍されている二人の経験談も踏まえ、ざっくばらんに話していただきました。

4回目(参加者:43名)は、3回目との連続講座として「高齢・障がい福祉分野の現状と課題について② 事例編」を行いました。4つの事例(障がい→高齢に移行するにあたっての連携(2事例)、障がいのある方が高齢になるにあたって(家族支援)、地域包括との連携)を報告し、グループに分かれてのディスカッションを行いました。

アンケートから、高齢・障がいがお互いを知ることやその上での連携の必要性が浮き彫りとなりました。障がいのある方が、65歳を超えても今までと同じ質のサービスが受けられるように、「狭間」で苦しむ人が生まれないように、次年度はまずお互いを「知る」ための研修会を実施する方向で動き出せそうです。

そして5回目(参加者:29名)の「西区で『我が事・丸ごと』は実現できるのか??」でこれまでの4回の研修を総括する形のシンポジウムを行いました。1~4回の研修で登壇いただいた、山田氏・小林氏・渡辺氏に、西区役所生活支援課の川島係長を加えての4名にそれぞれの思いを熱く語っていただいた後、グループに分かれてのディスカッション(テーマ「明日から出来ること」)を行いました。

我が事丸ごとを考える上で、目指すべき地域像を話し合う必要があるのではないかという意見や、お互いを知るために様々な活動拠点での活動を共有したり、交換研修を行う(西区地域自立支援協議会で人材交流研修が行われているので、その活用)のはどうか、施設に障がいのある方を集めること自体が、支援者中心の考えで当事者中心の考えではなく「隔離」してしまっているから、地域の中で障がいの方が見えにくいのではないかなど、意見が出ました。



研修会には、様々な分野や地域の方等が参加されており、まだまだ人数はそれほど多くありませんが、この形が「西区らしさ」であり、このお互いを知り合えるような場の設定を今後もたくさん創っていきます。

更に、それぞれの分野での良い取り組みを報告し合って、それが分野を超えて、その垣根を越えて一緒に出来ることを探っていく。制度の狭間を埋めることや、縦割りの仕組みをぶち壊していく。西区であれば、そんなこともできるのではないのでしょうか？

次年度は、この知り合える関係の中に地域の方も交え、「我が事・丸ごと」を自分の事として考えていけるような話など、地域と社会資源が一体となれるような企画ができればいいなあ、って考えています。

そして…生活創造空間にし研修は、9年目を迎えるのであった。

To be continued ...

第22回瀬戸コンサート

「昭和のメロディをみなさまへ・・・」報告

2018年3月14日夜 はたちの歌姫 有希乃路央（ゆきの じお）さんを招いて
懐かしいメロディに酔いしれました。

途中アカペラの楽曲もあり、声という楽器の素晴らしさを感じた一夜ともなりました。

心から美空ひばりが大好きという思いが会場を自然に包みました。

普段みかけない方々も来て下さり、

また西区地元の方々も、きっと今日はここにきて良かったと、
昭和歌謡の一節を口ずさみながら家路に着いたのではないのでしょうか。
またこの地にお招きし、再びのコンサートを企画しようと考えました。

はたちの人柄とプロの心構えにエールを！！

（コンサート担当 渡辺幹夫）



にぎわい&にしよこ寄席 其の11 2月24日（土）報告

「生笑（いきわらい）一座」という集団が、生きていれば笑える日が来ると言っています。
何しろ瀬戸際でも笑いがなにより大切。

桂 夏丸 真打昇進披露興行

三館共通入場券【新宿末廣亭・浅草演芸ホール・池袋演芸場】

■新宿末廣亭 5月上座 17:00~21:00 11日（火）~10日（木）※奇数日下り
■浅草演芸ホール 5月中座 11:40~16:30 11日（金）~20日（日）※偶数日下り
■池袋演芸場 6月中座 16:45~20:30 11日（月）~20日（水）※奇数日下り

【お問合せ】(公社)落語芸術協会 / TEL:03-5909-3080 ※新宿末廣亭のみ夜の部より入場可
桂 夏丸 / TEL:090-7222-8704
E-mail: k_a_n_k_59815@docomo.ne.jp

全席自由 2,500円



誰でもが笑い、笑い合うことが、希望を生み出し、生きる糧になっていきます。

「にぎわい&にしよこ寄席」も11回を迎え、話芸をお伝えしています。

今回は連続して出演されている桂夏丸さんが真打に昇進しました。おめでとうございます。
講談師の宝井琴柑さんにもお越しいただき、楽しい講釈を披露していただきました。

次回も乞うご期待。

（松乃家 ふくかん）

今年は例年より早く春の到来を感じる年になりましたね。

花見も暖かいなかで行うことができ、3月から大勢の花見客で賑わっていました。

この“もやもや日記”も2年目に突入しました。

去年は、四季に合わせたテーマで記載させていただいたので、ちょうど一周回ったなと実感しております。

改めて感じることは、腹ぐろーる先生は凄いなと思います。なにせ、広報の第1回目から30回近く、

ほぼお休みなく掲載を続けられていたのですから。そして、内容も毎回違う話題を提供されていて、

完璧な構成と、大小含めて、腹黒要素をしっかりと盛り込まれていたのですから。

たかだか4回で疲弊している若輩者の私とは比べ物になりません。今年度は、腹ぐろーる先生を見習って、

もやとした切り口で語れるよう邁進したいと思います！！

腹黒日記 ～黒々なるままに…新年度を祝して、華々しく復活～

☆ そば屋 ☆

「良き天気、心安らかなり。日本の夏 蝉の声 いま静かにて 木の下に宿れるなり わが心 その 宿れるなりと同じき 安き心にある。」 籠池氏が大阪地検特捜部に事情聴取のために出頭する際、詠んだ句である。籠池氏はどんな心境だったのだろう…。今回、新年度、新体制を祝して腹黒日記を1話限定復刻盤でお届けすることになった。満を持しての復活でさぞかし、おもしろいことを書くのだろうと…。あまりハードルを上げないでいただきたい。毎回、気の利いた文章を用意することの苦しさは上文で『男 もや田先生』がおっしゃっている通りだ。

さて、国会ではいまだに、「もりだ、かけだ」と「ここはお蕎麦屋さんじゃありませんよ」といった議論が続けている。もはや安倍政権も風前の灯か。一方でお蕎麦屋さんといえ、この生活創造空間にしにも口の悪い先輩から「蕎麦屋」と揶揄される職員がいる。この春、新館長となったガッツの阿部浩之所長だ。なぜ「蕎麦屋」かというと、①支援するご利用者のことを案じて、②西区や地域のことも心配で、③職員や施設のことも気にかけて、といった具合にあちこちに気を配り、結果、約束の時間に間に合わず、「今、出ました。」となるからだ。それでも、この生活創造空間にしにはそんなリーダーが必要だろう。

「いつも必要な人の^{そば}傍に」そんな「傍(そば)屋」が。(腹ぐろーる)

生活創造空間にし URL : <http://www.souzoukuukannishi.org>

【発行・印刷】生活 創造 空間 にし広報委員会 〒220-0055 横浜市西区浜松町 14-40

☎ 045-250-6506 (ガッツ・ビーと西) ☎ 045-250-6470 (エヌ・クラブ)